

#### 7 - 4 北陸 - 近畿および近畿 - 山陰地殻活動総合観測線における地殻変動連続観測結果 (2001 年 11 月 ~ 2002 年 10 月)

##### Results from Monitoring Chains of Crustal Activities in Kinki and Hokuriku District (Preliminary Report ; Nov. 1, 2001-Oct 31, 2002)

京都大学防災研究所 地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction,

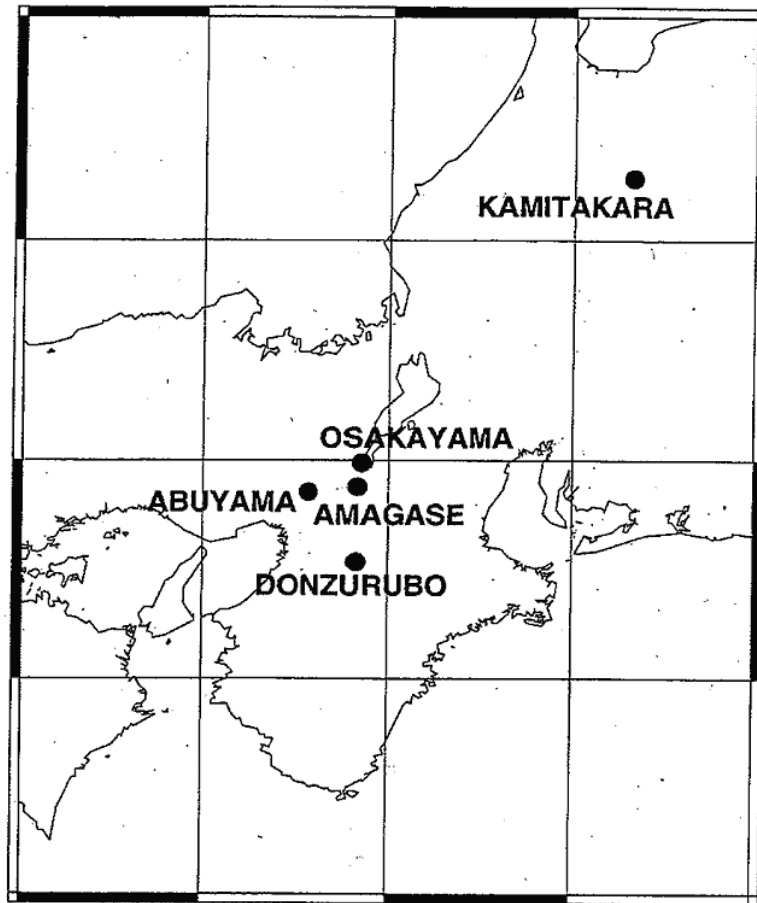
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

北陸 - 近畿および近畿 - 山陰の両地殻活動総合観測線を構成する観測点のうちから、第 1 図に示す上宝蔵柱、阿武山、逢坂山、天ヶ瀬、屯鶴峯の 5 点で観測された最近 1 年間 (2001 年 11 月 ~ 2002 年 10 月) の地殻ひずみ変化と降水量を第 2 図から第 4 図に示す。上宝蔵柱では傾斜変化も、また逢坂山では観測坑道内の孔井で測定している地下水位を示す。プロット値は時間値であり、降水量は 0 時 ~ 24 時の日雨量である。

この期間に付近で発生した地震としては、9 月 4 日滋賀県北部 M4.2(深さ 50km)、7 月 16 日京都府南部 M4.0 など、特に連続観測記録との関連を記述すべき地震は発生していない。

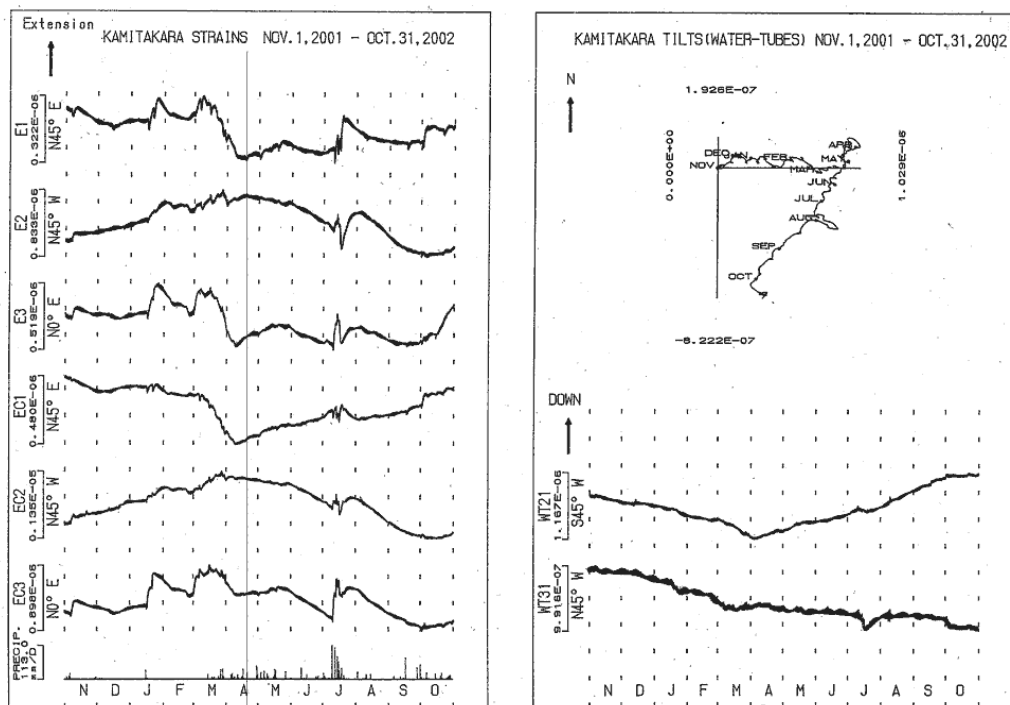
横坑における連続観測では降雨の影響を受けることが多く、年間の変化はその期間の降水の状態を反映したものになる。この 1 年は前年ほどではないが全般に寡雨傾向であり、季節的な変動は小さい方だといえる。しかし、細かくみると、上宝蔵観測所においては 7 月の中旬に台風 6 号に伴う豪雨があり、同月の月雨量も平年の 2 倍を超えたが、地殻変動記録にも季節的な変動に時定数の短い擾乱が重畳している。阿武山では 2 成分に顕著な勾配の変曲点が見られる。このうち、N58°E は例年の季節変動パターンと類似している。N32°W の方はもともと典型的な季節変動パターンを認めがたい成分であり判断が難しいが、同時期に他成分に特別な動きが見られず、地殻応力と結びつく情報とは考えられない。

(大谷文夫)



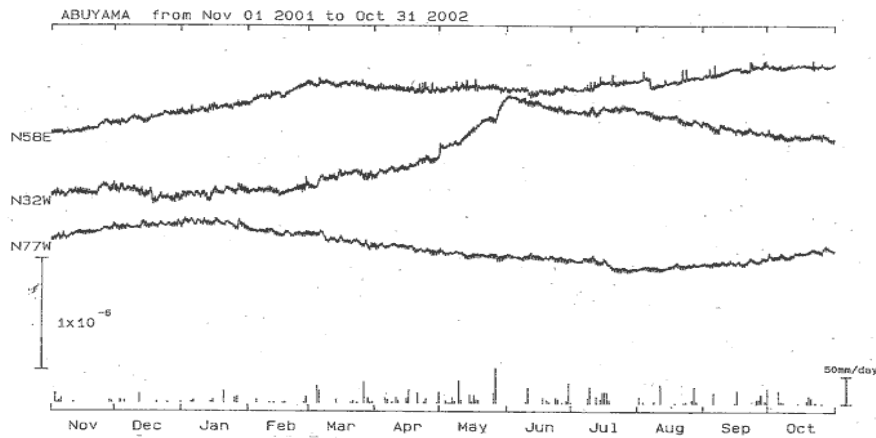
第1図 観測点の位置図

Fig.1 Observation stations.

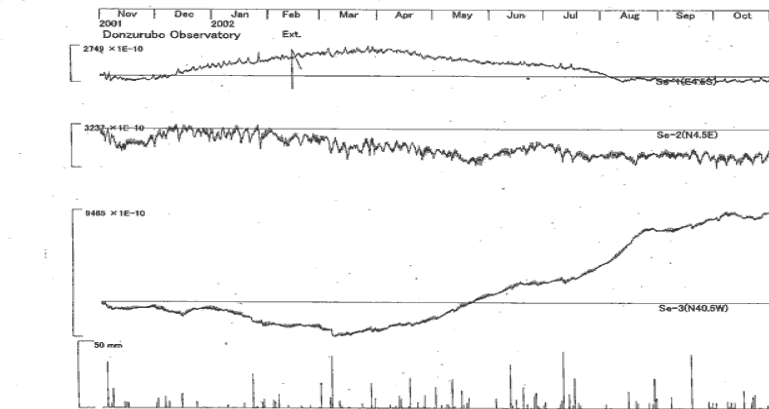
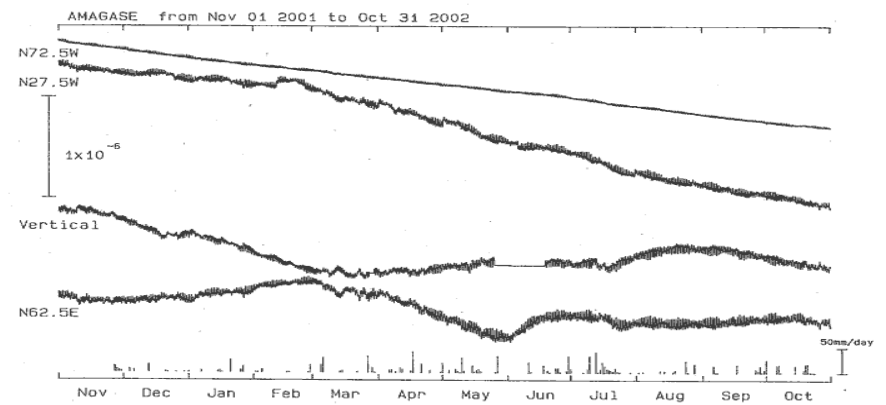


第2図 上宝観測所蔵柱観測室におけるひずみ・傾斜変化と日雨量(2001年11月~2002年10月)

Fig.2 Strain changes, tilt changes and daily precipitation at Kurabashira station of Kamitakara observatory. (Nov. 1, 2001 - Oct 31, 2002)



第 3 図 阿武山観測所におけるひずみ変化、降水量と逢坂山観測所における地下水位、降水量(2001年11月~2002年10月)  
 Fig.3 Strain changes at Abuyama observatory and groundwater level at Osakayama observatory with daily precipitation at both observatories. (Nov. 1, 2001 - Oct 31, 2002)



第 4 図 天ヶ瀬観測室におけるひずみ変化、降水量と屯鶴峯観測所におけるひずみ変化、降水量(2001年11月~2002年10月)  
 Fig.4 Strain changes and daily precipitation at Amagase and Donzurubo observatory. (Nov. 1, 2001 - Oct 31, 2002)